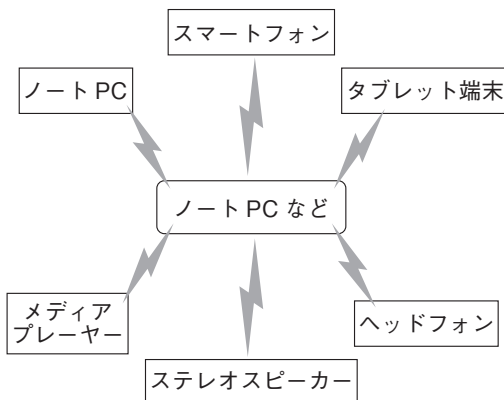




黒板とチョークさえあれば（あるいは何もなくても）生徒を惹きつける授業ができる。「教師の力量」の一つの指標と言ってもいいかもしれません。一方で、スマートフォンやタブレット端末などのツールが、善かれ悪しかれ、かつてのCDや電子辞書の登場以上のインパクトを持って授業や生徒の日常に浸透しつつあります。

ICT機器を使うだけで生徒の学びが劇的に変わるわけではありません。しかし、こうしたツールを一切知らずに黒板・チョークにこだわることと、知っていて（必要に応じて）黒板とチョークを選択できるのではまったく違います。特に英語の指導・学習においては、ICT機器活用によるサポートが、教師の自由度を高め、生徒の選択肢を広げる可能性を持っています。

最近ではタブレット端末の導入に関する話を多く耳にしますが、端末そのものと同じか、あるいはそれ以上に私が注目しているのは、多くの機器に搭載されたBluetooth®機能が授業にもたらし得る変化です。Bluetooth®機能とは、スマートフォンやタブレット端末などから、ケーブルを使わずに接続し、音声・画像等のデータをやりとりすることができる機能です。



授業で利用していて特に便利だと感じるのは、スピーカーです。ノートPCやタブレット端末、スマートフォンからワイヤレスで音声を出力することは、教師がスピーカーから離れて自由に行動できるということを意味します。

例えばリスニングの音声をくり返し聞かせたり、複数の音声を連続して再生したりする場合、タブレット端末やスマートフォンに音声データを入れておけば、教室のどこにいても音源の選択や再生・停止等の操作ができます。再生速度を調節するアプリもありますから、机間指導をしながら生徒が聞き取れなかった箇所に絞って繰り返し再生することも容易になります。

スピーカーに飛ばせるのは、リスニングの音声だけに限りません。事前に録音した自分の声や、辞書アプリのモデル発音、活動中のBGM、開始・終了を知らせるチャイムなども、同じ1つのスピーカーから流すことができます。接続先が固定されるわけではないというのもBluetooth®機能の強みです。

もちろんBluetooth®機能を利用しないとうことが実現できないわけではありません。上の例でいえば、ラジカセのリモコンを用いれば同じことはできるでしょう。しかし、Bluetooth®機能搭載のスピーカーがあればこうした面倒をなくし、授業中の教師の動線をよりシンプルかつ自由にすることができます。機器の配置や操作の制約で生じる無駄が、案外生徒の集中力を削ぐ要因になると思うのですが、いかがでしょうか。

今はまだ現実的ではないかもしれませんが、端末をグループや各個人で利用している環境であれば、席に座ったままスピーカーに接続して、それぞれの端末で録音・録画した音声をクラス全体で共有するといった使い方もできるでしょう。